

中齋塾 東京フォーラム
平成 29 年度 第 10 回講話

平成 29 年 12 月 9 日
於 湯島聖堂

おはようございます。お寒い中よく来ていただきました。でも寒いと言っていると寒さが増します。言葉は面白いもので、体は寒いけれども心は温かい熱い、そう思うと何となく温かくなります。今、私は温かいです。なぜ温かいか。…カイロを持っていますから。

細かいことですが、朝、目覚めると 50 代までは飛び起きていました。安岡先生が目を覚ましたらベッドの中でグズグズするな。さっさと飛び起きろというようなことを書いておられます。でも 60 代以降は飛び起きないほうがよろしいかと思えます。60 代からは、起きたらとベッドの中で手を動かし、手の平をさすって温める。足も温めて、そろそろ起きると体にいきかせて起きるようにしています。

中齋塾フォーラムをスタートさせる時に考えたことは、60 代がどういう体力であるべきだろうかみたいなことを考えました。でもまだ体力に自信があったので、さほどやりませんでした。

今日のテーマであります「判断基準」ちょうどよい年の暮れです。年の初めになったら、来年は何をしよう。年が改まったら今年は何をしよう。そうすると原点に立ち返るということ考えると良い。これも判断基準で、さてどうしようかなと思えば自分自身の原点をそれぞれ考えてみればよいでしょう。

季刊誌『知足』の創刊準備号をみたら「還暦返礼」と書いてありました。学生時代、60 代になったら社会にお返しをする年代だと教わりました。それで 60 代は社会にお返しをすることにしました。「足るを知る」という考えかたを世間様にお返しをしていこうと中齋塾フォーラムをスタートさせました。その時に顧問の先生方から「知足案分ということ」石川忠久先生、「先哲名言「足る」という文字について安岡正泰理事長、木内孝さんは「氣付くか氣付かぬかの勝負」と、それぞれの方に書いていただきました。回しますので御覧ください。今回のレジュメで 12 月のお話は「判断基準」と書いてありますが、例は書いてございません。これは原点に戻るとお考えいただければよろしいでしょう。

さて最近では、お話をさせていただく時に、猪瀬理事長が何を話したかに合わせて色々お話を進めています。今回も猪瀬さんの話からお喋りを始めようと思ったら、来年は比田井さんにお任せしますということが中心で、あとはちょっと正法眼蔵のことを持ち出されただけで、あと脳の話です。この話を元にして自分の体験談を申し上げます。

最初、中齋塾フォーラムは母体がございました。悟道会という会です。その会の中で話の仕方について練習をしましょうとなり、3分スピーチをいたしました。3分の間に起承転結で話をする。それで時計係が「終わりです」と言った時にピタッと終われば合格。1秒2秒過ぎたら不合格ということで、ぴったり3分間で話をする訓練をしました。最初は上手くいきませんでした、段々とできるようになってきます。起は何秒、承は何秒、転は何秒と、その3分間で起承転結をきっちりやって2秒~3秒も狂わせない。狂ったら失敗ということを悟道会でしていました。その体験を踏まえて起承転結でやろうと思ったのですが、先ほどの猪瀬さんは起承転結で違うことを並べて喋って感情の起伏を入れなかったの、これを受けて話をするのは結構きついと思います。

脳の話でいくと、先ほど木内顧問の紹介をしました。82歳です。今月16日に引退の記念式典を開東閣でいたします。昨夜は詩吟の会で木内孝さんの先輩である難波さん達と忘年会をしました。その中で引退式の話をしたら、ぼろっと出てきました。アメリカで三菱電機が家電製品を売りたいと思い、その時は三菱商事が担当したそうです。その頃、木内さんは三菱商事に出向していました。三菱電機がアメリカにできた時の初代社長が難波さんでした。木内さんが常務取締役で参加をしたそうです。難波さんが退いた後の二代目社長に木内孝さんが就任しました。その頃の話で、木内さんにはあまり世話にならなかったが、奥さんは大人物で世話になったと言います。木内さんが顔色をちょっと変えて、家内の前では言わないで欲しいとなるそうです。難波さんの母親が亡くなられた時だったと思うのですが、日本に帰らなければならない時に、お子さんも小さく誰かに頼もうかと思った時、木内夫妻に頼んだら、とてもよく面倒をみてくれたそうです。木内さんの奥さんにとっても感謝をしていました。だから木内さんに対してよりは奥さんに対してでしたので、よっぽど内助の功が発揮されたなと思いました。奥さんの話は前に何回か言いましたが「これから主人は明るく元気な呆け老人になります。私はそれを十分支えてまいります」ということを話しておられました。

少し認知症ぎみになった人の奥さんは、奥さんの対処の仕方でご主人の認知症の進行速度がだいぶ変わるようです。奥さんが冷たくあしらって、のけ者にしていくと認知症は進むみたいです。逆に、ご本人の気持ちを明るくおおらかにしていくと進行は緩やかになるそうです。ということで、自分が危ないと思ったら奥様がおられる方は奥様にそこらへんをよくお話をして、私がすぐ死ぬと年金収入はカットされるから、私をなるべく長生きさせて頂戴と言っておいた方がいいでしょう。

これは4~5日前の話です。私は老人ホームを経営していますが、その中で入所されているある方が新聞を見ていたら自分のおばが亡くなったと載っていた。この方は運転もできて頭もちゃんと回るし普通の会話もできるので、「おばのお葬式へ行きたい」といったので心配せずに送りだしたそうです。ご自分で運転してお葬式に参列し、その後老人ホームに帰らず自宅に帰ってしまいました。でも自宅は電気が点かないので、施設に帰って来るものだと職員は思っていました、なかなか帰ってこない。携帯に電話をしたら今日は自宅

に泊まると言うのです。職員が心配してタクシーを自宅の方に向かわせたら、乗って帰ってきたので一安心となりました。翌朝、職員が「昨日は大変でしたね」と言ったら、「何のことですか、昨日は外出していません」と言います。そしたら鍵がない。私は外出してないのに鍵がないとなったので、鍵を探しに別の人間が調べにあちこち行ってみたけれども結局みつからない。仕方がないということで警察に鍵の紛失届をだしたという話がございました。ご本人は新聞記事を見て親戚が亡くなったからお葬式に行ったのですが、一晩経ったら覚えていない。完全に忘れているわけです。今の話は認知症の話です。

先ほど猪瀬さんが言われた話の中で時間に関するもの、頭、脳みそで自分のことに置き換えて言いますと、私は50代の終わりの時は60代のことを意識しました。60代がお陰さまで終わって、今70代に入っておりますから、69歳の時に意識したことは、体がこれから段々弱るという話をたくさん聞いています。体力がつるべ落としで落ちるという話を聞いているので70代はつるべ落としに落ちるに決まっているから69歳の1年間には何か健康法をして今の体力がゆっくり落ちてきたものを上向きに上げようと思い、上げてそこからゆっくり落とそうと考えました。69歳の誕生日から1年間、毎日自転車に乗ると決めて、その日に乗れない時は翌日まとめて乗りました。365日自転車に乗り続けた結果、ずっと落ちてきた体力、脚の筋肉が上がりました。来年の2月に人間ドックですので、体力年齢を調べてもらおうと思います。自宅にある体力測定の機器では45歳でございました。一気に落ちないで緩やかに落そうと思っています。これが60代最後の健康法です。私もつるべ落としで落ちないと思っています。落ちないと思っている理由は、健康医療開発機構で経済産業省の課長が講演をした時の話が記憶に残っています。前に申しあげましたが、今までの体力年齢は、男性は50歳ぐらいから、つるべ落としに落ちる、女性は緩やかに落ちるというのが常識でした。しかし最近、体力年齢がつるべ落としではなく、だいたい60代ぐらいの体力をベースにして、ずっと横ばいの人達がでてきた。それを経済産業省の課長は中小企業会長型と名付けた。若干は下がるのでしょうか、死ぬまで体力は横ばいでいく。

70歳に入って考えたことは70代の健康法は開発しましたから、開発したことを開発した通りに進めていけば70代の健康は横ばいでいくという自信があります。今度は80代に向けた健康法を開発しなければならないと思っていますので、今は研究中です。その中のポイントは、体力は何とかなるなと思いましたが、認知症はなんともなりません。認知症になった人を見ていますと、家庭環境が冷たいとちょっと進みますね。それから、ひとつのことに偏った仕事をしている人も進んでいるという気がいたします。良い方向に向けるには前にも申しあげた「か・き・く・け・こ」が良いと思います。日々感動するものを見つけること。何かに興味を持つこと。工夫は、どうすれば自分の人の生きざまが良くなるか。やっぱり周りを見ていますと、歳がいけばいくほど男性も女性も異性の友達を作るのが良いみたいです。茶飲み友達が良いと思います。恋人を作るのは大変だから恋心で良いと思います。それから健康です。余分ですが、貝原益軒の『養生訓』が良いと思います。『養生訓』も煎じ詰めれば、背筋を伸ばして接して漏らさずという。それを実行してい

た戦国大名は多いです。豊臣秀吉も2~3人添い寝をさせている。添い寝をさせるということとは接して漏らさずの実践ですね。

年末は自分の重大ニュースを作られると良いと思います。私は、今年は何があったかを必ず調べています。日記を付けていますので、各月ごと自分にとって大きな出来事は何があったかを書いています。20や30ぐらいは軽くでます。それを削って10にまとめます。そうすると人生の棚卸をすることになります。来年のことを考える場合は、年が明けて年賀状が届きますけれど、年賀状の見分けかたがあります。全部印刷になっている年賀状は見た瞬間に捨てます。添え書きがしている年賀状はよく読んで、残すもの、処分するものと分けています。それでもう一回、見直しをしようと思うと一山残ります。それで一山残った年賀状はじっくり丹念に見ます。丹念に見て今年1年間の中で会いたいと思う人の年賀状にはマーカーで塗って別に置きます。それでマーカーで塗った人達は一覧表を作って、今年はこの人に会いたいリストとなります。会えない時は、手紙やメールでやり取りをする。メールのやりとりはどれも味気ないので、たいがい顔を見たり声を聞いたりして、電話で話をするようにしています。

今年の暮れに残念だったのは、亡くなった方から葉書をいただきました。葉書を見たら「長らくお世話になりました。お陰さまで私は無事にあの世へ旅立つことができました。私はお先にあの世に参りますが、あなたはゆるゆるとご滞在ください」と、あの世からの手紙という形で届きました。最後の二行ぐらいに、主人から亡くなったら、この葉書を出すように言付かっておりますのでお出しをいたしますと書いてある。すぐまた返事を書いて出しました。その方は会えなかったけれども、ずっと連絡を取り合っていましたので良かったなと思っております。

年末と年の初めは、やっぱり何か普段と違うことをしています。ということで、一年間の総括をする時期でございます。どうぞそこらへんをお考えいただいて一年間どうだったかということのを重大ニュースにまとめられて、なおかつ翌年のことに活かすと良いと思います。

恒例の質問

- ・一年間を振り返って良い日が続いたと思う方どうぞ。

顕在意識で考える方は手が挙がりにくい。潜在意識で考える方はスムーズに挙がる。顕在意識、潜在意識は猪瀬理事長が来年は話をするでしょうから、よくお考えいただいて自分の物にしていただければ良いでしょう。唯識学になります。

- ・今年一年、嘘つくことは少なかった、嘘はつかなかったな。

嘘をつくと言魔様が舌を抜きます。やっぱり舌を抜かれると痛いでしょうが、政治屋さんのように、抜いても抜いても生えてくる人はいるでしょうが、嘘をつかない人は、なかなか抜けないと思いますので抜けない舌にしましょう。

・今年一年間、有難うと言ひ、有難うと言われることがとても多かった方。
「有難うございます」と言われなければ、「何の人生よ」とお考えください。

・一年間、健康法をよく続けたな。
栗林さん、手が挙がるのが早かった。太極拳は40年でしたっけ？それは手が挙げられますね。

・夜寝る時、楽しいことを考えた方。
昨晚、寝る時に楽しいことを考えわくわくすること考えて寝た方。

<休憩>

では後半を再開いたします。先ほど恒例の質問で自分磨きが残っていました。

・一年間、自分磨きを続けてきたぞと思う方、如何でしょう。自分磨き、自分を磨く。
自分磨きは事上磨錬です。日常生活の中で自分を磨く。磨き続けるということです。磨かない人は急流の中に自分を放り込めば勝手に磨かれてきます。

畑中さんの場合は、急流に揉まれる所に自ら飛び込んで、はっと気がついたら綺麗に世俗で頭が取れてポンと岸に出てくる。そんな感じがするけれど畑中さん、どうでしょうね。

畑中会員一おっしゃるとおりです。

後半に入ったら、ドアが開いて畑中さんが入ってこられたから話を振りました。

基本哲学 <知足>

知足は何事によらず足るを知る。六本木さんは初めてお目にかかります。六本木って地名がありますが、関係ありますか？

六本木会員一分かりませんが、群馬にも多いです。

有難うございます。名字が嫌だなという方はいないですよ。時々、親が付けてくれた

名前が嫌だという人がいて、改名する人がいますが自分の名前は満足していますか？

小さい頃はあだ名を付けられたことがあると思いますが、昔の人は結構自分であだ名を付けてみたり、周りの人からあだ名を付けられたり、当たり前だったと感ずます。

前にも申し上げた話で、安岡正篤（せいとく）先生と私は呼びます。先月、金鶏神社の社稷祭がありまして、詩吟と奉納吟詠を頼まれましたけれども、安岡正篤（せいとく）作ということで漢詩を吟じました。昨年奉納吟詠の時は名前の説明をしましたが、今年は説明をしませんでした。人がそういうことをしますと、周りの人も真似することが多いですね。

湯島聖堂の石川忠久先生も、忠久（ただひさ）と読みますが、そういう読み方は面白くないから忠久（ちゅうきゅう）にしましょうと本人に言いましたら、「そうだね、それが良いね」となりました。ということで親の付けてくれた名前に歳いっても反抗するもんですね。ということで「足るを知る」ということは、満足をするという言葉ですが、満足までいかなければ程々でよい。人生って100%完璧なんてないです。60%以上ほどほどです。

この間、会社で懇談会をした中で「部下を抜擢する時、どれぐらいの点数の人を抜擢しますか」と聞きまして、「100点満点で80点以上の人でしょうか90点でしょうか」というから「何考えているんだ。うちの会社の実力を考えろ。60点合格、40点はもうちょい頑張れ。自分の眼で見て6割以上いったら合格。自分の点数は何点だと思ふのか」と。

だいたい人間は自分で自分をみると100点満点に近いかなと思うけれど、周りが見るとガクンと下がります。自分もひっくるめて、他人をみる時も程々が良いと思います。人物評価をする時も6割ほどほど。自分の評価も6割ほどほど。今の世の中、各国いろいろと言っていますが、安倍さんも言うものだと思うけれども、あれは自分の保身でやっているという気がしてしょうがない。ということで国際問題も、時事評論の間にちょっと挟みま

す。

時事評論を挟むというのは、今日の論語の視点「衛霊公」の中に出ています。あとで読みますけれど、孔子が旅をしている時に周りを囲まれて、七日間食べられなかった。そうすると餓えてお腹が減ってどうにもならない。弟子の子路は腹が立って、聖人君子のような先生でも困ることがあるのか。先生についてきた弟子達は私も含めて御飯が食べられなくて困っている。どうしてくれるのか。孔子は、小人は困ると盗みやとんでもない悪さをする。君子はお腹が減っても慌てないで我慢。でもお腹が減り過ぎると頭がすっきりしてきてお腹が減っている状況を忘れることがありますね。そういう状況になったのではないかなという気がしますが、孔子もその域にいて、お腹が減って乱れるのは小人。私は乱れない。子路お前はどっちに入るのかいと。小人物だったら騒いでもよい。大人物になっていく聖人になりたいなら騒がないで我慢をなさい。我慢をしていると、そのうち頭がすっきりして物がよく見えるようになる。それで死んでも本望だろう。そこまで言ったかどうかは分かりませんが、騒がなかったということがあります。

時事評論

今日の読売新聞（平成 29 年 12 月 9 日）はベネズエラのことが出ています。「経済危機のベネズエラ脱出 避難者殺到 ブラジル困惑」こういうものを見たときに新聞の読みかたと合わせて言います。

ベネズエラで飢え死にをしそうな人がかなり出てきている。実際に見ると約 5000 人の集落で毎年 4~5 人の子供たちが死んだ。5 年間でベネズエラ北東部の先住民族ワラオ集落の人たち 5000 人が 1500 人に減った。飢え死に以外に避難していくからということですが、このときの見出しのつけかたは一体なんなのか。ぱっと見るとブラジルは困っています。死んでいるってことは書いてない。飢え死にが出ているってことは書いてない。よく読めば出ていますけどね。「経済危機のベネズエラ脱出」新聞を見ながら、何だいこれはとみる必要があります。

以前、私は経済危機に陥った国々をずっと見た中で、経済危機に陥って経済破綻を起こした国は、例外なく汚職が原因です。汚職がきっかけで経済破綻を起こしていました。この記事には、一言も汚職賄賂とは書いていない。この記事を書いた記者は経済危機や経済破綻をどう捉えているのかと思う。そういう解説はしないで何が新聞記者かと思う。それでベネズエラよりブラジルが困惑って書くのは何なのか。ブラジルに対して何を考えているのか。ということで、これを書いた記者はいったい何を考えたか。これを世に出すときに編集の人などが見るわけでしょう。それをまた最終的にチェックする人はいないのでしょうか。

メディア出身の会員一整理部のデスクです。

では、デスクが悪いのでしょうか。批判するときは、整理部のデスクに対してやればよい。新聞を見た時に、これは何なのか。この記事を書いた人間の知識は、どの程度あるのかということです。

我々がやっている横の知識です。どの程度あるのか。縦の知識どの程度あるの。その程度かと。自分が書いたらどうなるの。そういうことを考えながら読むと良いでしょう。

今年の流行語でいくと新聞社が政府をいかに忖度して記事を書いているのかということです。

新聞は知行合一の合がない。社説で何々すべきであると書いたら自分でやれば良い。自分で出来もしないことを書くものではないと感じます。

昨日の新聞で「プーチン 4 期目 今度 24 年を目指す」と書いてある。プーチンが 4 期 (24 年) の力の外交計画プーチン時代さらに。単純にこれは事実関係を書いただけ。事実関係

を書いたと私が思うのは、経済危機です。繋がっています。少なくともソ連がロシアに変わった時 2 千万人前後の人達が飢え死にをロシアではしていました。私はロシアに出掛けて、その状況をみてきました。この話に賛同してくれたのはペマ・ギャルポさん唯ひとりでした。私はよく 24 年間もだまし続けたなと思っていまして、その事実関係を書くことについて、なにか多少プーチンの功罪みたいなものを載せるべきではないかと思えます。それに対抗して習近平の話がある。習近平は皇帝化に向かって突き進んでいると思いますけれど、本人は暗殺されることを極度に恐れています。本人が側近に「私はゴルバチョフにはならない」と言っているそうです。ゴルバチョフはご存知のとおり共産主義社会を資本主義社会へ移行させる橋渡し役を担った。ということで、ゴルバチョフと同じことをしている自覚はある。何故ならば共産主義社会は、もう終わりですから。

習近平に期待されている役割は、共産党一党ではなく多党化させて、資本主義社会もしくは民主主義社会に移行させる役目を担って、きちんと中国が変わったら、ご苦労さんということが既定の路線だったようです。でも使い捨てにされないような動きをしていることが透けてみえたので申しあげておきます。

論語の視点 (衛霊公 十五)

【一】衛の霊公 陳を孔子に問う。孔子対えて曰く、俎豆の事は、則ち嘗て之を聞けり。軍旅の事は、未だ之を学ばざるなりと。明日 遂に行る。陳に在りて糧を絶つ。従者病みて能く興つ莫し。子路 愠り見えて曰く、君子も亦 窮すること有るか。子曰く、君子固より窮す。小人 窮すれば斯に濫すと。

衛の霊公は、ご存じのとおり「無道君」道のない君といわれたりしています。あとは色香に迷った霊公というふうに見てください。

霊公が戦もやりたいということで孔子にどうすればよいかを聞きました。「俎豆」は儀式です。「軍」は 1 万 2 千 5 百人、「旅」は 5 百人。軍隊の単位・数です。孔子の腹の中は色好みの君主が今度は戦を始めたいと言う。孔子は儀式のことは学んだから知っているけれども戦のことは知りませんとつっぱねて翌日旅だったというところ。陳に在りて糧を絶つは、去って陳に行った。「糧を絶つ」は、周りを囲まれて食料を絶たれてしまった。「従者病みて能く興つ莫し」みんな餓えて腰が抜けてしまって立てない。それで子路が怒って、君子もまた困窮するのかと聞いたら、君子だって人間だから困ることはある。けれども肝っ玉の据わってない小さい人物は悪いことをする。私は悪いことはしないし、そのうち助けが来ると。孔子は、天が私に使命を与えたのだから、こんなことで死ぬわけがな

いと確信を持っている。

論語は大急ぎでした。あと 1 分で終了ということでございまして、最後に一言いっておきます。

来年は戊戌（ぼじゅつ・つちのえいぬ）です。戌も戌もどっちも、もう目茶苦茶。安岡正篤先生でいえば繁茂する。

来年は收拾がつかなくなっていて、どうにもならない状況の年です。オリンピックが開かれるか開かれないかは五分五分だと思っています。北朝鮮やロシアの問題など、国際的な関係が目茶苦茶になってくる。日本国内も同じです。あとは人災がとても酷いことになってくるし、そこへ自然災害が加わったら、ひっくり返ります。ひっくり返ったらオリンピックは開かれないでしょうね。どうにもならないことが起きたら、とてもではありませんが戦争が始まると思います。戦争が始まったらオリンピックどころではなくなります。

来年は目茶苦茶な年でございますので、自主独立が大事になります。ここで一番肝心なのは、自分の判断基準を持つ。人が何を言おうが関係ない。自分の原点を振り返って、自分は一生の間、何をやりたいと思って大人になったのか。大人になった時どういう人生を送りたいと思ったのか。

特に角南会員は、久しぶりに中齋塾フォーラムに参加されたから、俺はこの会社をこうやりたいと思ったことがあるでしょう。そしたら今年 1 年間振り返ってみて、さてどうかと考える。自分の原点を考えて、自分はこうやりたいと思ったことに遠ざかっているか近づいているか。もし遠ざかっていたら近づけましょう。自分の判断基準を持って過ごすことが来年生き延びていくことに繋がります。生き延びる。これはかなり運が作用します。

良いことを考えたから良いことが来るか。あり得ない。悪いことを考えたから悪いことが来るか。あり得ない。たまたま運ですよ。何か落ちてきた時に、ここら辺にいたら死ぬ。ここら辺にいたら生き延びる。ただ生き延びた時に、その運を最大限に活かそうとするためには原点に立ち返ることが肝心です。

以上で終わります。今年 1 年間有難うございます。来年も宜しく願いいたします。よいお年をどうぞお過ごしください。